

つなぐ、フリーペーパー

Paper Smart



VOL 2 | APRIL 2023

自分の人生を歩く ～大好きなことを仕事にして～



舟橋洋子さん
着物リメイク手縫い作家
教室『はないっとき』主催
2021年11月 仙台から岐阜に転居
2022年1月 スマートクリニックで人工関節手術を受ける

入院中もお仕事への思いを語られていた姿がとても印象的だった舟橋さん。まだ寒さの厳しい2月のある日、昨年当院で手術を受けられた舟橋洋子さんを訪ねました。

—手術をしようと思ったきっかけは何ですか？
元々通っていた整体でレントゲンを撮ってきてくださいと言われて、スマートクリニックに来たのがきっかけです。最初は手術をすることを全く考えていませんでしたが、レントゲンの画像を見たら膝がすっかり潰れていたので手術を決断しました。当時私は岐阜に引っ越したばかりで早く仕事に復帰したいという思いから、早い決断になったのだと思います。

—術後、辛かったことはありますか？
退院してからも半年くらい痛みが強く夜中に何度も目が覚めて辛かったです。痛み止めも効かず冷やして何とか耐えていました。周りからは『手術をしたようには見えない』と言われてきましたが、歩くときはなるべく左右の足を同じように動かす努力をしていました。リハビリの先生方には大変お世話になり、歩きたい一心で1年間週1回のリハビリに通い続けました。特に強めのリハビリをお願いしたおかげで膝がどんどん良くなって行くのが分かり、術前の元気な時の自分を思い出して頑張れました。

—手術をしてよかったことはありますか？
見知らぬ土地でしばらくは教室を再開できないと思っていたのですが、転居から半年経った6月に再開できたことはミラクルで大変嬉しく感謝しています。座っての仕事だからか手術前のように足が曲がらないけれど、必ず良くなると信じ毎日毎日ストレッチをして、膝が1ミリでも改善し動かせるように努力したおかげで、確かに良くなっています。痛みから解放されてアイシングも使わなくてもよくなった時に回復したのを実感しました。

—これから手術を考えているゲストに一言お願いします
これからの人生をどう生きたいかを考えた時に、ずっと痛みで不便を感じながら過ごすのが良いか、または手術をして痛みと不便から解放されるのが良いか。痛みを我慢したり不便な思いをせず、今までできなかったランチや旅行に行ったり、お出かけをしたいという希望が皆さんにもあるはず。これからやりたいことがあるならば、決断は1日でも早い方がいいです。手術をして希望や楽しみが待っているならばリハビリも頑張れます。目標を持てば必ずその目標に近づいていきます。初めから完璧を求めずに、一歩一歩そこに近づいている自分を楽しめたらいいと思います。

現在着物リメイク手縫い教室をされている舟橋さんに、お仕事についても伺いました。

—洋裁との出会いは？
物心ついた時には母に棒針に作り目をしてもらい編み物をしていました。自分でお人形を作ったり、家庭科ではみんなが裁縫で1つ作品を作るところを2つ作ったり、デートの前日にお洋服を徹夜で作ったりと、作ることが大好きになっていました。洋裁学校へは行かず、今まで独学で試行錯誤しながら学んできましたが、気づいたら幼い時から同じことをしている私がいきました。

—現在のお仕事について教えてください
50歳の時に、これから飽きずに死ぬまで続けられる仕事をしようと考え手縫い教室を始めました。そこでタンスにあった着物をリメイクしようと思ったのです。当時、世間で着物リメイクと言うとミシンで作られているものが多かったので、手で縫おうと思いました。私の作品は型紙もなくオリジナルのデザインなので、流行り廃りがなく10年前に作ったお洋服を今着ても新鮮です。また、絹物には金目のものは合わないと思いファスナー・ホックは使わず、素材を大切に優しい縫い方で作るので、着心地も楽ですし、洗濯機でお洗濯ができてとても実用的です。昨年6月から教室を再開しましたが、4月に岐阜転居後初めての生徒さんの発表会（ファッションショー）を行います。6月にはコロナの影響で3年延期していた個展も銀座で開催します。着物リメイク手縫い教室『はないっとき』は、現在多治見市の公民館と自宅で教室をしています。もしご興味があればぜひいらしてください。

—インタビューを通じ舟橋さんがお仕事と真摯に向き合う姿に『人生を自分の足で歩く』という強いメッセージを感じました。これからも自分らしくキラキラ輝く舟橋さんのご活躍を応援しています。どうもありがとうございました。

着物リメイク手縫い教室『はないっとき』
見学、お問い合わせ随時受付中
TEL: 090-8924-1681 (舟橋さんまで)



お孫さんと作品を着て

